

# よもぎ ごようり

77号

2016年 秋冬号

## 近況報告

昨年はネパール大地震のため、大きな被害にあったネパール人スタッフの村や家の崩壊などでヘルスキャンプを中止いたしました。ようやく復興の兆しが見え、イスワルさんを始めネパール人スタッフが「ヘルスキャンプしましょう。」と言ってくれたので、昨年予定していたルンビニヘルスキャンプを実施いたしました。

HPに掲載しましたがすぐに定員に達し、過去最高の21人の先生方に参加いただくことができ、とても嬉しく、無事7日間を終えることができました。

今年は過去にないユニークな先生方や特技をお持ちの先生が多く、ボディービルチャンピオンの先生や沖縄舞踊の名手、なんという競技かわかりませんが発光するロープのようなもので演武をされた先生などがおられ、8月にお誕生日を迎えられた参加者二人のバースディーパーティーと入籍2日後に旦那様を日本に残し参加いただいた先生など、ユニークなメンバーで絶えず明るく和やかな雰囲気うちに終了しました。

会場は公立学校の講堂をお借りすることができましたが、冷房も扇風機も電気もなく、滴る汗をぬぐう時間も惜しんで治療に専念頂きました。ご協力いただいた関係各位に心からお礼申し上げます。

アシスタントはこの学校の上級生と看護学校の学生さんが慣れない手つきでお灸をひねったり線香で火をつけたり、患者さんの介護も手伝ってくれました。毎日300~400人の患者さんが私たちが到着する前から列を作っていて、椅子などもなく貧血で倒れる人もでるしまつ……。その倒れた人をボランティアたちが治療しているところへ連れてきますが、空きベッドや空間がなく、鍼を打ったまましばし交代して頂くことも再三再四ありました。

日本から参加の先生たちは6日の治療が終わった後、白衣を脱ぐ間も惜しんで、待っているバスに乗り込み30Km離れた空港へ移動、カトマンズへ到着しました。

ヘルスキャンプそのものは新患受付4日目まで、私たちが帰った後はネパール人スタッフとローカルボランティアだけでフォローしてくれました。

カトマンズ到着後は各自自由行動なので、延泊される先生方も何人かいらっしゃり、ポカラへ行かれたり、瞑想センターの5日間コースに行かれたりしました。

ルンビニから帰った翌日、チベット難民の子どもたちを預かっていらっしゃる加藤千晶さんの施設を訪問させていただきました。

くったくのない17人の子どもたちのなんと澄んだ目と明るい笑顔だったことでしょう。千晶さんを始め施設のスタッフたちの献身的な愛に包まれすくすくと育っている姿にみなさん感動を覚えられたようです。

ボディービルチャンピオンのコヤマッチョ先生はさっそく自慢の腕で力こぶを作り2人の男の子を腕につかまらせグルグル回りほかの子どもたちも「僕も。私も。」とびっくりしながらも集まってきた姿が印象的でした。

ここにはチベット医学のDrもいらっしゃったので診察を受けられた先生もいらっしゃいます。基本的には脈診と望診そして漢方薬の治療でしたが希望者全員は受けられなかったため、翌日もDrの治療を受けに行かれた先生も数名いらっしゃいました。

1人落伍者もなく、病人もせず、諍いもなく、四六時中笑いの絶えない楽しい雰囲気の中にヘルスキャンプを終えることができたことを心から嬉しく思います。

# 言葉の大切さ

Maya チャン

出発のかなり前から畑先生が口を酸っぱくされて(?)ネパール語を覚えて来て欲しいとおっしゃっていた。何が出来るか考えた時、それが言葉だった。腕も未熟、知識も未熟、それならばその穴を言葉で埋めよう…！そう思った。

結果として、それが自分でも予想していなかったほど、HCを豊かにしてくれた。覚え切れなかったネパール語、新たに必要になったネパール語は、現地に行ってから翌日のHCに備えてメモ書きしたり、ブツブツと唱えて練習した。

mayaはネパール語で愛、名前を付けてくれた両親に感謝である。初日は全くそれどころではなく、使う気配すらなく、必要のない努力をしてきたかと密かに、でも結構落ち込んだ。3日目頃から会話の余裕が出てきたように思う。

施術は初日は無我夢中で結果がどうだったのか不安が残り、2日目からは良き師に囲まれて、指導を仰ぎながら鍼や灸が出来るようになって、かなり落ち着き学びの連続であった。技術だけではなく、患者さんへの接し方や言葉がけ、笑顔、本当に全てに於いての学びだった。自分なりにその日のテーマも決め、坐骨神経痛や臀部痛など腰の疾患へのアプローチを学んだ。翌日は膝もカバーしていこう、その翌日は肩や腕に痛みがある人・腕が上がらない人、どんな時痛いのか、いつから痛いのかをしっかりと確認していこうなど、本当に限られた時間の中だからこそ自分でテーマを定めて向かわないと、何も出来ず終わってしまう。

幸い教えて下さる先生は沢山いらっしゃる。2日目からは自分の頭も切り替えた。人数はベテランの先生方にお任せして、私はカルテや聞き取りをしっかりと行った。どの出会いも一期一会だったが、特に印象深い出会いが幾つかある。お子さんが4人いるという可愛らしいama(お母さん)だ。彼女は頭とお腹が痛いと言う。よくよく聞いてみれば風邪をひいているらしい。「大椎にお灸いっぱいしてあげなよ～」というDaichi先生の一声。お灸や鍼をしながら、その「お子さんは…」というフレーズが自然と口から出た。自分にもバッチャ(子ども)が3人いるよと伝えると、えー本当?というように彼女が嬉しそうに笑った。「チョリ? チョラ?(娘?息子?)」と話が弾む。彼女には翌日も来てもらうよう伝えた。

私は他の患者の治療をしていたので、担当にはならなかったが彼女は私を見つけて挨拶してくれた。嬉しかった。私も合間を縫って彼女の元へと向かい、大丈夫?頭やお腹の痛みはどう?と尋ねると、大分良くなった様子で安心した。治療を終えた彼女が立ち寄ってくれたので、ハグをした。涙がこぼれた。彼女の目も潤んでいた。ダンニャバード…フェリ ベトゥンラ…ダンニャバード。ありがとう…又会いましょう…ありがとう。国は違っても、どこの国でも、amaはamaだ。みんながんばっている。

そして支えてくださったネパリストaffの皆さん、快く全てを教えてくださいました先生方、先輩方、励ましあったHC仲間「yu-suke!」デレイ デレイ ダンニャバード!フェリ ベトゥンラ!

## 異国でのコミュニケーション

鍼灸あま指師 安座間 真弓

鍼灸学校を卒業し、臨床に入って約十年経ちました。やりがいはあるけれども、「まだまだ、もっと」といった感が強く、グレーゾーンの中にいる感じが常にある状態が続いていた中、何か違う角度で鍼灸に触れてみたいという気持ちから、キャンプ参加を決めました。

21人の参加者がいるという集団心理的要素が強く、実際の治療は甘いものではなく、患者さんと向き合うと一気に現実に引き戻されてしまいます。「言葉の壁」がとても大きかったです。日本にいて言葉が通じるので、五感をフル稼働する割合が少ないなということに改めて気づかされました。

そんな中で心強かったのがボランティアの学生さんです。こちらの状況、相手の様子などさっと把握し対応してくれ、とても助かりました。年齢も若く、何ににでも興味があるのでしょうか。とても目がキラキラしていて素直な反応がとても印象的です。

今回ボランティアの学生さんの一人にランチに誘われ、彼女の自宅に招待される機会に恵まれました。ちょうどヘルスキャンプの会場の学校から徒歩10分もかからない距離で、彼女のお母さんと妹さん、弟さんと姪っ子さんでお出迎えしてくれました。まだ知り合って数日しか経たないうえに、両者とも第二外国語の英語を中心とした会話、聞く人が聞けば絶対にちぐはぐな会話だと思のですが、なぜか繋がり楽しくすごせました。

ランチはカレーでした。手で食べたりするのかなとか、床に座って食べるのかなとか、色々想像していたのですが、私の情報が古かったですね。ちゃんとテーブルでスプーンを使っての食事だったので、安心したのと同時に少し残念な気もしました。私たち以外の四人は食べ終わった後だったので、注目されながらの食事で少し緊張し、でも楽しく会話ができました。

ネパールは言葉も文化も違う国で、日本の日常からは想像できないことだらけですが、人と人のふれあいかたはどこでも同じだなと思いました。「誠意をもって接すること」とてもシンプルですがコミュニケーションをとるうえではとても大事なことだと改めて認識しました。少し接すると欲が出てきます。もっと内部まで接したい気持ちがでてきて、やっぱり言葉は大事だなと思いました。

今回のキャンプは、私のがちがちの頭をゆさぶり、これからの施術をはじめ多方面に繋げていけるいい経験になったなと思います。

## 2016HCとチベット医学に触れた10日間

沙羅鍼灸院 院長 黒川恵子

ネパールで毎年開催されているHCのことを聞き知ったのは3年ほど前のこと。やっと念願が実現して飛行機に搭乗する頃には期待と不安で既に胸がいっぱいになっていた。

大勢の人たちと寝食を共にし、1つのプロジェクトに取り組む、ましてや場所は日本の常識が通じない国ネパール。一体どうなることやらと思っていたが、現地で合流した他の参加者の先生方や畑先生の顔を見ると同時に不安が吹き飛び、精一杯、今の自分にできることを努めれば良い、と覚悟を決めることができた。実際、HC中も現地スタッフやアシスタントたちに助けられ、限られた時間の中で落ち着いて治療を行うことができたように思う。

ネパールに滞在した10日間の中で最も心に残っているのは、カトマンズでクンデ・チベタン・ハーバル・クリニックのチベット医シラップ・ギャルツェン師の診察を受けることができたことと、TCP 統括責任者であるかとうちあきさんが運営されている児童養護施設を訪問できたことである。

日本の伝統医学である鍼灸も伝統の継承の危機に瀕していると個人的には思っているが、国を失ったチベット医学の抱える問題と状況は日本のそれと比較にならないくらい深刻と聞いた。そんな状況の中でも「利他の心」を失わずに医療を行われているシラップ・ギャルツェン師と、彼をサポートしておられるかとうさんの活動に深い感銘を受けた。

日本のように恵まれた環境の中で暮らしていると、あるものよりもないものに目がいってしまいう自分に気がつくことがある。日本人の美德の1つである「人に迷惑をかけない」ということは、人と関わりを持たなければ守られるが、少ないものを分かち合う喜び、共に助け合うことで得られる貢献感を得る機会は少ない。ネパールでは、分かち合う喜びも、助け合う機会もふんだんにあった。

そしてネパール滞在の間を通して「完璧でなくても良い」というメッセージをネパール人の方たちから受け取ることができたことも大きな収穫だった。

完璧な言葉を話せなくても、完璧な治療ができなくても、今の自分にできることで誰かに貢献することができる。たとえ何かを貢献することができなくても、「私」という人間の居場所を提供してくれる、そんな懐の深さをネパールという国を訪れて感じた。

またこのような機会があれば、ぜひ参加させていただきたいと思っている。

## 100 の笑顔

鍼灸按摩師 佐々木大地

「どこから来たの？」と行きのタイの空港の待合室で隣に座っていた男の人が聞いてきた。「日本だよ」というと「とてもいい国だね！」と言ってくれた。続けて彼は「これから香港に行くんだけど、日本人と中国人、韓国人、台湾人など顔がみんな同じに見える。君らの違いは何かある？」と聞いてきた。「文化や言語、、、」僕はそれ以上答えられなかった。ただたんに英語ができなかったからではなく、全く思いつかなかったからだ。そんな彼はパキスタン人でムスリムだと言った。ムスリムと言うとテロリストの仲間だと疑われ軽蔑され、とても辛い思いをしてきたそうだ。「ムスリムが怖いか？嫌いか？」と聞かれたので僕はきっぱり「NO. 地球人はみんな仲間で好きだ」と伝えると彼はとても嬉しそうに笑ってくれ、一緒に写真を撮った。これが僕がこの旅で初めて見た笑顔で、とても印象的なものだった。

今回のネパール HC の個人的な目標は、“100 人の笑顔を見る”、ということだった。初めての参加のため治療の様子などは全く分からないので、シンプルにわかりやすい目標にした。いろいろな人に話しかけ、あいさつをし、自分の担当以外の患者さんたちにも声をかけたりしアイコンタクトを取るよう意識した。さらに、わかる言葉はなるべく現地の言語で話すようにし、コミュニケーションを取るようにはかった。始めは自分も相手も現地のアシスタントの子たちも少し緊張していたが、次第に自然と笑えるようになり治療所に笑い声が増えていくのを感じた。ネパールでは未だカースト制度が根強く残っており、カーストが低い人たちは足蹴に扱われたり、医者などからも労りの言葉をかけられることはまず無いという。そんなときに「お気をつけて」「お大事にどうぞ」などの何気ない言葉が多く、ネパール人たちの心に響き渡っていた。

正直、治療効果が実際どれくらいあったのかはよくわからない。しかし優しい言葉かけや、笑顔を向けること、触れ合うことで少しでも相手が笑顔になり幸せな気分になれたらそれで十分だと思う。一度しか言っていない自分の名前を覚えてくれていたり、声をかけてくれたり、握手を求められたり。その一つ一つが僕の中で大きな財産となった。

気が付けば患者さんたち、現地のアシスタント、乗り合いバスの乗客、ネパール人スタッフ、日本人スタッフ、行き帰りの飛行機・空港で知り合った人たちなど 100 人以上の多くの人たちに出会った。今回の目標である“100 人の笑顔を見る”という目標は達成することができ、たくさんの仲間も得ることができた。このネパール HC は、世界中のもっと多くの笑顔をみたいという思いを強め、決意を固めるものとなった。

# ヘルスキャンプ

山室 宣人

ヘルスキャンプとは一言で申し上げれば、畑先生がネパールに対する愛だと感じました。その畑先生が愛するネパールで多くの方々を治療することができ、大変嬉しく思いました。ネパールという国は貧困とはお聞きしていましたが、自分が想像していたよりも環境が悪いことを肌で感じましたが、ネパールの人々の心の優しさ、一緒になって楽しむというとてもピュアなところに触れられ面白い国だと思いました。

今回の治療は一人ではなく多くの鍼灸師とネパール人鍼灸師とネパール人スタッフ、全員が協力してこそ成り立つもので、担当が違う患者さんを多く見れ、経過を見ていくことが出来たのは面白く感じました。またスタッフの方々や特にアシスタントの医療に対する思いが熱く、何故そこを治療するのか、主訴とは全く違う場所を治療しているが効果が出ている等といった事に興味津々で、自分もただ治療するのではなく、今まで習得してきた技術をまた新しい視点で見ることができ、とても新鮮な治療でした。

その中で自分に不足しているものや、こうすればよかったと思う治療方法も多くあり少し後悔が残ることも多々ありましたが特に二例程悔しかったです。

例えば、ある肝硬変の男性患者さんですが、一回目の主訴は左腹部の痛みでした。治療後はとても軽くなったと言って頂き、翌日もう一度来て頂き問診をしたところ大分楽になったというコメントを頂き嬉しかったのです。三回目の治療はどうしても短い時間しかできなく申し訳ない感じがしました。

もう一人は女性です。脇腹が痛いという主訴で治療をし、楽になったと言って頂いたのですが、治療後にまだ頭が重いという事なので首に置鍼をしたところ、急に倒れてしまい、額を打つという失態をしてしまいました。

急遽、脈拍、心拍数、意識、呼吸音、心音を確認し幸い意識もあり脈拍もしっかりしていたので、良かったのですが、自分としては大変申し訳ないことをしてしまったと感じました。また自分の医学に対する知識不足や自分の力の無さを痛感させられた瞬間でもありました。

アシスタントの方やスタッフの方々とは仲良くなれ、日本にいても連絡ができるこの時代に感謝しつつ、彼らと共に今後ともより良い医療を作り、貧富の差が関係なくすべての人が医療を受けることができ、より良い生活を送れることが出来るようになれることを胸に抱きつつ、今後とも頑張っていきたいと思っています。

またこのような機会に参加することが出来れば、今度は悔いの無いよう頑張りたいと思っています。貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

## 笑顔が増えていくために

東洋医学総合はりきゅう治療院 一鍼 院長 児山 俊浩

2016年8月12日～18日（滞在期間11日～20日）ネパールのルンビニにて、ティテパティよもぎの会主催東洋療法無料巡回治療（通称：ヘルスキャンプ・HC）に参加しました。2015年の地震の爪痕が未だ残るネパールにおいて、釈迦生誕地である神聖なルンビニにてHCが始まり、開催地の学校には、各地から大勢の患者が集まり、気温35度、湿度70%を超える中、全身汗だくになりながらの鍼灸治療は、まさに野戦病院さながらの状況でした。

今回のHCへは数十km歩いて来られる方も多くみられ、疾患・症状としては、片麻痺、ポリオ、アレルギー、HIV、生理痛、生理不順、不妊症、高血圧、喘息、坐骨神経痛、尾骨痛、頭痛、胃痛、膝痛、肩痛、腰痛、不眠、冷え等々の多くの方々を診させて頂きました。

また、「ザムザム」という現地特有の神経痛・感覚異常もありました。私は、午前中で10～50名の患者を6日間、計約200名の方々を鍼灸治療させて頂きました。特に印象深かったのが、一人では歩くことのできない左片麻痺の高齢男性でした。この男性には、全身の鍼治療を施し、介助しながら階段の上り下りを行いました。はじめは恐くて動かせなかった脚も、少しずつ前へ踏み出せるようになり、その一步一步が男性の意欲を高め、ほぼ介助無しで3階までの階段を上り下りできる程になりました。この時の男性の満面の笑顔はこの先も忘れることはないでしょう。そしてまた、アシスタントを連日してくれた青年から、「僕も日本で鍼灸を勉強したい。先生の患者に対する心を尊敬している。まさに神様だ」と言葉を頂き、自分の姿勢を見られていたことに驚いた上、ここへ来て良かったのだと思えた瞬間でした。

また一方で、ネパールのチベット難民支援団体チベタン・チルドレンズ・プロジェクトの孤児院へ伺う機会を頂きました。運営されている加藤様より、ガソリンタンク内に入って来た子、荷物と一緒に川を流れて来た子、亡命した子を引き取り、当時は極限に痩せて腹部が膨らみしらみだらけ、大人が恐いため手を噛まれたこともあるとお聴きしたことに、大変強い衝撃を受け涙腺が緩くなりました。

その子ども達を抱きかかえ触れ合い、私の両腕にぶらさがった時の屈託のない笑顔に感動しました。帰る道中まで、手を握ってきてくれて、「サヨナラコヤマツチョ！！」と手を振ってくれた笑顔は心に刻み込まれました。

今回グループリーダーを拝命し重責でありましたが、貴重な経験と多くの学び、そしてたくさんのお出会いがありました。今後、日本の鍼灸師が世界で活躍し、素晴らしい日本鍼灸が広がることを切に願います。そして、多くの目の前で苦しんでいる方々、子ども達を救い、たくさんのお笑顔に出会えるようこれからも微力ながら行動してまいりたいと考えています。

最後に、会長の畑先生はじめ山川先生、熊木先生、イスワル先生、ネパールの鍼灸師の先生方、現地スタッフ、会員の方々、関係者の方々、鍼を提供して頂きました株式会社セイリン様、そして、一緒に活動させて頂きました最高のメンバーに深く感謝を申し上げます。



# ヘルスキャンプ（HC）2016 を終えて

鍼灸院ぜんみ堂 鍼灸師 手島美沙

私が手配した福岡発カトマンズ行き路線は毎日運航しておらず、HC解散後三日間の滞在を余儀なくされた。私はその間の過ごし方にとっても不安を感じていた。そんな中「ポカラ」というキーワードが浮上。考えあぐねているとメンバーの二人が行くと言った。ポカラ出発一日前のことである。

ポカラの空港はベリー・キュートだった。到着ロビーは石造りっぽい小さな建物。四メートルもない手荷物引き渡し所を横目に出口から出ると、刈り込まれた芝生と朱色の花々、そして青空に向かってそびえる大木が迎えてくれた。ゲストハウスのオーナーと彼の家族も私の緊張をほぐしてくれた。

翌早朝、私たちはヒマラヤの日の出を見るためにサランコットへ向かった。感動。（以下略）満たされた気持ちのままゲストハウスで休んだ後、一人で外を散策した。誰もが進んで活動しない暑い昼下がりであった。牛が点在する小坂の先にアーユルヴェーダのお店を発見する。そこでシロダーラを初体験するも更に汗だくになり、暫くロビーでゆっくりしていた。するとオーナーが話しかけてきた。

本来このお店は長期治療を目的とする人が集る宿泊&治療院だそう。十日間のプログラムで目下滞在中という日本人と話が盛り上がっていると、着飾った従業員たちがあちらこちらで目立ち始めた。数日後に祭りがあるのだけれど、オーナーが翌日から不在なので前倒しで今日祝うことになったらしい。ご厚意でサリーに着替えている部屋を見学させてもらった。着付け役らしき女の子が細かくブリーツを寄せながら作り上げていく。他の女の子達は皆メイクに余念がない。

日本でいえば浴衣の着付けの様子と言ったところかな？最終日、ゲストハウスでカナダ在住のネパール人二人と雑談した。二十年ぶりにポカラを訪問して町の風景はかなり変わってしまった、と言っていた。ふと、ヒマラヤの光景を思い出した。あの自然美は永遠であってほしいな。すっかり気に入ってしまったポカラとちょっぴりおセンチな気持ちでお別れした。

## シンプルな喜び

鍼灸師 小柳真美弥

今回ネパールルンビニでのヘルスキャンプに初めて参加させて頂きました。ルンビニはとても熱く日中の気温は40℃を超え、湿度も高く汗だくになりながらの治療でした。

初めてのヘルスキャンプ、日本で覚えてきたネパール語も発音が違うようでも通じず、言葉でのコミュニケーションができない中での治療の難しさを痛感しました。

またネパールは停電も多く、シャワーを浴びている最中に真っ暗になることもありました。

そんなネパールで、日本での恵まれた生活が当たり前になっていて感謝を忘れていた、ということに気づくことができました。

停電から電気がついたときのうれしさ、デコボコ道だらけのルンビニから首都カトマンズへ戻ったときの舗装された道をバスで走るスムーズさへの感動。治療後に、無表情だったネパール人の方が見せてくれる笑顔を見られたときの喜び。

ある「肩があがらない」という男性の治療をした時、鍼治療後に肩がすっと上がったときの笑顔を見られたときのうれしさと、アシスタントをしてくれていたボランティアの子が「マミヤサクセス」と言って一緒に喜んでくれたことはとても心に残っています。

ネパールでは、日本にいたら当たり前になってしまっている、ひとつひとつのことをシンプルに喜ぶことができました。

楽しいメンバーにも恵まれ、治療終了後に他愛のない話をしながらゆっくりビールを飲む、日本ではそんな時間はなかなか持てないので幸せな時間でした。

また、今回入籍二日後にヘルスキャンプへ参加して、最終日前日の夜に開催されたパーティーの中で結婚のお祝いもして頂き、こんなに多くの喜びを感じられ、思い出深い10日間は初めてでした。

不便だったり大変だったことも多くあったけど、それ以上に喜びと感謝を感じられ素敵な仲間との出逢いもあり、今回参加できて本当によかったと思います。

また今回は21名の先生方が参加されていて、それぞれの先生で治療のやり方が違っていたりして、それを見ることができたこともよかったです。鍼灸といっても、刺さない鍼や様々なやり方があり、純粹に「鍼灸っておもしろい」という気持ちを確認することができました。今回6日間で約100名の方の治療をさせて頂いて、日本では絶対経験できないことを経験できとても勉強になりました。今回の経験を生かし、今まで以上に勉強して腕を上げ、またいつかネパールの方々へ治療をすることができるといいなと思います。今回のヘルスキャンプに関わった全ての皆様に深く感謝します。

♥♥♥ありがとうございました。♥♥♥♥

# ネパールヘルスキャンプ 2016 に参加しての感想と現状と対策について

小泉漢方堂鍼灸療院所属：新井陸大

今回私は縁あってネパールヘルスキャンプ2016に参加させていただきました。

ヘルスキャンプ期間中に私が感じたネパール人の健康状況に関しては、一番多いのが冷えによる腎臓系統の弱りに伴う腰痛や婦人科疾患、次いで飲食不摂生による胃腸系統の弱りに伴う膝や腰などの運動器疾患が多かった様に思われます。

3番目に呼吸器の過剰反応も診られましたが、これは腎臓系統の弱りによる作用だと思われるのでこの治療は後回しにしました。

ただこれはネパール人の生活様式や意識問題、環境問題も反映されるので全てを改善することは困難だと思いました。

幸いにネパールで使用されている食品は日本よりは添加物の量が少ない気がしました。それに伴い食事の調理方法や摂取方法に一人一人意識を変えていくだけでかなりの効果が期待できるのではないかと思います。

私の理想は病気は自分で治すものであり何かに頼るものではないのではないかと思います。次いで生活様式は冷えの傾向が顕著に見受けられましたので湯船に浸かるなどにより温まることを積極的に行って、また筋肉量が増えると体を温める力が増えるので筋肉トレーニングを積極的に行うのも効果的なのかと思えます。

今回、畑先生の下、微力ながら力添えをさせて頂きました。楽しく愉快でユーモアたっぷりな諸先生方と一緒に鍼灸活動をさせて頂き非常に有意義な時間を過ごす事ができました。

ネパールの方たちとも、少ない時間ではありましたが触れ合う事ができとても楽しかったです。

皆様の素敵な笑顔で、また無邪気で純粹さは、おそらく日本人がどこかに忘れてしまった感情なのだろうと思えました。彼らの生活が安定し健康な日々を送れる様に願っております。

今回非常に短い期間ではありましたが鍼灸師としてこれからやりたい事も見つけられました。

鍼灸の世界もこれからもっと発展していける様に、これからも頑張っって日々精進していきます。

これから海外でのボランティア活動も行っていけたら良いなと思っております。

この度は、畑先生、ネパール人スタッフの皆様、参加された先生方誠にありがとうございました。

## 「ボリ アウヌス」から「アザ サンマ」へ

鍼灸あん摩マッサージ指圧師 青木 弘之

昨年（2015年）夏に旅行でカトマンズを訪れて以来、一年ぶりのネパールでしたが、今年のヘルスキャンプの地ルンビニは標高も低く、さすがに暑かったです。

毎朝滞在先のホテルからバスに乗り、舗装がガタガタな道を走って会場となる学校に向かいます。初日こそは行列はなかったものの、日を追うにつれ、校舎の前に患者さんの行列がどんどん延びていきます。その光景を目の当たりにして圧倒されました。

朝早くから、こんなに施術を待っている患者さんがいるのだな…気が引き締まります。

患者さんの待つ、校舎内の一室へと入ると、既にベッドや床の上にもたくさんの患者さんが…早速準備を整えて、患者さんへの施術を始めます。

簡単なネパール語で質問して、患者さんの症状を尋ねるのですが、返ってくる答えは当然ネパール語…症状を訴える患者さんは真剣そのものなので、できるだけ理解しようと、学生ボランティアの皆さんにも通訳してもらったりしたのですが、分からないところはひたすら聞き役に徹して、患者さんの表情、しぐさからも、つらいところをイメージします。

患者さんの数が増えていくにつれて、施術することだけで精一杯になってしまいました。患者さんが少しでも安心してもらえるような施術を心がけました。

エアコンもなく、人いきれの中、体を動かしているとすぐに顔から汗が吹き出し、メガネのレンズに滴り落ちます。腕からも玉のような汗が噴き出てきます。

施術が終わった後、まだ続けて来ていただきたい患者さんへ、最初のころは、「ボリ アウヌス」（明日来てください）と声掛けしていたのですが、最終日には「アザ サンマ」（今日までです）と挨拶して終えてしまうのが心残りでした。

中には、いろいろとつらいところがあるので、続けて施術してほしい、となかなか腰を上げない患者さんもいらっしゃいました。

でも、心を込めた挨拶だけが、最後に私が患者さんにできることでした。

今年鍼灸学校を卒業したばかりで、臨床経験も乏しい私に当たった患者さんには、正直申し訳ない気持ちもあります。それでもほんの数名ですが、同じ患者さんを連日施術する機会があり、日に日に良くなっていると言っていたことが、素直にうれしかったです。

鍼灸学校在学時から関心を持っていたヘルスキャンプに今回参加して、想像以上に多くの人々が関わっていることを知り、自分の想像力の乏しさを恥じる一方、新しい世界が広がっていくことを実感しました。

畑先生やネパール現地スタッフ、学生ボランティアの皆さん、それに日本から参加したユニークでタフな仲間たちに改めて感謝申し上げます。

## 迷走する HC

鍼灸師 アチャール浅井

仲間とわかれて七日、カトマンズの生活も長くなり、三日前から近郊の瞑想センターに滞在し、ここであの戦場のようなルンビニ HC を回想して果たして自分はどれだけやれたのだろうか？と自問しながらその内省は自然に自らの人生の来し方行く末におよび、無音の山中で一人、いまこの瞬間にひたすら意識を集中しながら、やがておそらくそれは未来のための、ある決意に導かれるのだろうか。例えそうであっても、此処には義兄弟の矢ツチャンも子矢魔ツチも不在で寂しすぎて感涙禁じがたい。(暑苦しくなくていいんだけどね)

ということで、ようやく接続したメールをチェックするとゴッドマザーから感想文の催促とアチャールは(あなたの人生、迷走してるから)だから瞑想センターのことを書きなさいとご指示頂戴したので、そうですね、ぼくは、みんながこの次もネパールに来たくなる誘引として瞑想センターのことを書くね。

じつは、まさしく、このネパールはいま世界中の知識人から、瞑想の中心地のひとつとして注目されてる国なんです。そもそも基本的には瞑想は仏教で自分の心を鍛えるための修行の方法としてうまれたんだけど、それが80年代からハーバード大のジョンガバットジンやオックスフォードのマークウイリアムズが再発見をして大規模な科学研究によって、ストレス低減や鬱病再発率低下に大きな効果があることが実証されたことをきっかけに、脳神経科学的な見地から様々な疾病の治癒効果やIQ向上効果が確認されていて、拳句の果てにはGOOGLEが社員の能力向上のために瞑想をメソッド化したために欧米で爆発的に浸透し始める。医学を志す治療家なら基礎教養として瞑想を知るべきですね。(詳細はそれこそググって)

それで、とくにこのネパールは、チベット仏教とインド仏教の接地点でありながら、さらにここに欧米の科学者が新しい解釈をもちこむことで独創的な思想的融合がおこっている稀有な国です。実際、今いるこのセンターでも、同室はメキシコ人環境コンサルタント、知り合っただけでアメリカ・イタリア・フランス・ロシア・ヨルダン・インドネシアなどから、医者・ビジネスマン・記者・科学者・パイロット・芸術家などが朝6時から夜11時まで多種類の瞑想トレーニングをがんばってる。

ネパールには荘厳な寺院から辺境のヒマラヤ山中までいろんな瞑想センターが10箇所以上あるし、次回のHCではあと数日オプションを追加して、ここでもいいし、またはインドやチベットまで足をはこんで精神と身体の心身一如のHCを実現しましょう！野戦病院のようなHCから、静謐な実存を内観する瞑想センターまで、ネパール文化の内奥を味わいそれらに身を投じる、そういう修練こそが真の治療家を養い育てるはずですよ。

畑美奈栄先生、ほんとうに有難うございました。この貴重な体験は一生忘れません。

## ネパールの文化、生活に触れて

村上雄祐

今回私はネパールという国に初めて訪れると同時に初の海外ということもあり、最初から緊張や不安で一杯だった。それでも事前にはネパールという国について調べていたつもりだったが、本やネットで調べるのとは違い、実際に自分の目で見たり感じたのは全くの別物だった。

ヘルスキャンプ地のルンビニ、カトマンズやパタンなどを訪れたが、それらで感じたのはいまだネパール大地震の影響が残っているということや、これも頭では分かっていたことだが、日本とのギャップだ。

道路には信号がほとんどなく、あったとしても電力不足によりそれが機能しているところは見たことがなかった。しかしネパールの人たちはその状況に応じた交通ルールを独自に形成していた。基本的に舗装されている道路は少ないため、自動車の往来より粉塵や砂が舞っているため、それにより呼吸器系に障害を負う人もいるということは考えられ、周囲を改めて見回してみるとマスクを着用している人が多かったことに気付いた。

ネパールは仏教やヒンズー教など多種多様な宗教が混在しているが、それでもうまく国として文化として、さらには観光の一部としてうまく取り扱っている。先ほど述べたように地震による影響で多くの建造物が被害をうけた。それに対し日本をはじめとした海外の国々も援助をしていることは周知の事実だが、その援助の仕方も考えなければならない。

というのも一つの例として挙げると、パタン市のダルバール広場ある博物館の壁の一部は海外の国が修復したためモダンな感じになっており現地の雰囲気とそぐわなくなっている。そう考えるとネパールの国として援助金は有り難いが実際の修復は自分たちでやりたいということも理解できる。

そしてもう一つ印象に残っているのがネパールの教育関係である。小学生から落第があるということ、公立の学校に関してだが体育や図工、音楽といった授業がないこと、足し算文化のため引き算が彼らにとっては難しいということ、私立の学校もあるがやはり裕福な家庭の子どもでなければ入学が難しい。

今回のヘルスキャンプには現地の学生ボランティアが多数参加していたが、彼らもまた私立の看護学校の学生だという。彼らにはずいぶん助けられた。患者とネパール語で何とか会話しようとしても自分の発音が悪いため、全くコミュニケーションが取れないことが多くあった。しかしボランティアが間に入り分かりやすい英語にしてもらったり、お灸などの手伝いをしてもらったりして感謝している。

最後に今回このヘルスキャンプに参加させていただいて大変感謝して、この経験をこれからの治療に活かせるように頑張っていきたいと思う。

畑先生をはじめとしたよもぎの会のスタッフの方、参加された先生方、ネパール鍼灸師の方たち、現地ボランティアの方々、全員に改めて感謝いたします。ありがとうございました。

## 2016. ルンビニヘルスキャンプ

oosawa 鍼灸整骨院 院長 大澤 安則

実は僕は、今回よもぎの会ヘルスキャンプが最後ということで、何が何でも参加したいという思いで、連絡しましたが、定員オーバーで最初は参加不可という形であきらめていました。

ところがキャンセルが出たためOKとなり、これはもう神様が今年は海外というものを経験してみなさいと言っているんだと思い、無事参加という形となりました。

参加してみて思ったのは、なんてまとまりのないチームなんだろう、大丈夫なんだろうか?というのが最初の印象でした。

たった2週間ですが、されど2週間、それもネパールという国で停電も多いし、食べ物も、水も安心して飲み食いができない。ストレスが溜まってしょうがないだろうと思ってました。とにかく笑顔を、日本と違って、みんなが笑顔でさえいれば乗り切られると思っていました。不安も、いつの間にか、いろいろ個性の際立つ仲間だとわかり、すぐ楽しいと思える日々をおくれるようになり最高に楽しくなりました。

ネパールは暑くて、湿度が高く、雨季ということもあり洗濯物も乾きが悪く気分は下降気味でも、ヘルスキャンプで来る患者さんや、子供の笑顔を見ると癒されます。

### !!! 笑顔は世界共通です !!!

しかし、食べ物がなく物乞いする子供たちもいます。お母さんと一緒に物乞いします。生きてくためにはどの世界も苦しいのだとつくづく思います。

大きな子供に飴をあげたとき、めちゃくちゃ喜んでいました。そんな飴じゃお腹も膨れないのに。僕は悲しい気持ちで胸がいっぱいになりました。

チベットの孤児院も、口減らしのために捨てられて、ネパールに荷物に紛れて亡命したとか、悲しすぎる出来事なのに、子供達は僕らに笑顔を振りまいてくれます。

わかってはいましたが、笑顔だけでは幸せになれない子供たちがいることをネパールで思い知らされることとなり、又自分たちは日本に帰って何をすればいいのかと、とりあえず自分の子供を抱きしめてあげようと思いました。

## ルンビニの思い出

なのはな鍼灸整骨院 池堂 圭一（ポカリ）

ルンビニ3日目ホテルに併設されていたプールにて、ビーチボールを持参していた私は皆とコミュニケーションを取ろうと思ってビーチボールをインド人？のグループの方にバレーボールをする感じで投げ入れて見ました。

始めは気を使ってトスで返してくるだけでしたが、みんな興味津々。5分後には「私も！私も！」・・・と大盛り上がり！水深の深いところでずーっとボールを待っている人もいましたが、その人に浅い所で遊ぼうと指をさし誘導したらすぐに笑顔に、、、（\*^。^\*）

ネパールではプールのあるところが少なく、ほとんどの人が泳ぎが得意ではないため皆と一緒に楽しめた楽しい時間でした。

施術に関して最も印象深かった事は、痛いところはどこかと尋ねたとき患者さんの皆が皆3か所4か所も訴えてきました。私なりに覚えてきた、つたないネパール語を使い、ボランティアスタッフと連携して施術を進めました。最後には2人のボランティアスタッフがそれぞれ母親、祖母を連れて来て、私を見つけて「診てください。」と言ってくれました。沢山の先生方がいる中でこの一言は本当にうれしかったです。

日本語以外での施術は初めての体験でしたが、異文化を知り、学び、コミュニケーションを取るための努力がいかに大事かということを実感することができました。

最後になりましたが畑先生、事務局の山川先生、ネパール人スタッフの皆さま、ボランティアスタッフ、そして日本から一緒に参加した皆さん、どうもありがとうございました。



## ・・・ネパールに思いを馳せて・・・

陽だまり“はり・きゅう”治療室 中野朋儀

「よもぎの会」スタディーツアー（ネパールの無医村で鍼灸による無料巡回治療）ヘルスキャンプに参加しました。今回のキャンプ地は、ネパール南部（インドとの国境近く）に位置するルンビニでした。ネパールでもインドに近い南の地域（ルンビニなど）は標高が200mほどですが、カトマンズは標高1300mほどです。

最初にカトマンズに降り立ったときは、暑いけどそれ程東京と変わらないかな？と思うぐらいでしたが、カトマンズから国内線でルンビニへ降り立つと何ですか？この暑さと言うかジメット感は？？？が最初の感想でした。

いよいよ、ヘルスキャンプが始まりました。

ボランティアは、地域の学校が（1年生から15年生まで在籍しています）会場になっていました。

既に受付が始まっていて患者さんが会場二階へ流れて行く中、足の悪い高齢者を学生さんが両方から手を貸し上に導いていました。自然に助け合う気持ちは、まさにブッタの精神でしょうか、とても「感」入る場面でした。

会場に入ると、目に飛び込んできた光景は想像を絶するスケールと凄さでした。待ち並ぶ人々に圧倒されながら治療をスタートしました。ボランティアの学生さんがアシスタントで手伝ってくれる中、嘿嘿と治療を進めました。

しかし、何という暑さでしょうか、すぐに顔から汗が滝のように流れます。からだから水分が無くなっていくのを感じ、からだにまとわりつく湿気を含んだ空気がからだの動きを止めていきました。

治療しても治療しても並んでいる患者さんは減っていきません。外に並ぶ患者さんの数は日に日に増えていきました。ボランティアの学生さんも一生懸命に手伝ってくれ汗を流していました。少しでも患者さんの為にとボランティアの学生さんと一緒に治療できたことはこの上ない喜びを感じ、ネパールの人々の優しさに触れたヘルスキャンプでした。

## ヘルスキャンプ 2016 ネパールの滞在を延長し、ポカラへ

ヒロクマ鍼灸出張所 代表 天野弘子

2016年ルンビニにて開催されたヘルスキャンプを無事に終え、8月20日に日本に帰国する一行をネパールの首都カトマンズの中心から約4キロのトリブヴァン国際空港でもぎの会代表畑先生とネパール滞在組と共に見送った後、手島美沙先生、田村啓朗先生と三人で徒歩約15分の国内線ターミナルへ移動しました。これから、わたしたち3人は「ポカラに行かなければネパールに来たことにならない」とネパールへの飛行機の中で会ったネパール人に言われたポカラへ行くのです。

カトマンズから西へ200キロ、イエティ航空30名乗りのプロペラ機で約30分、かわいらしい管制塔がある素朴なポカラ空港へ到着しました。11日間ルンビニとカトマンズで過ごしたわたしたちが、まず驚いたのは、ポカラの空気の綺麗さです。ホコリが立ち込める息苦しさは全く無いのです。「息がしやすい〜！」思いっきり深呼吸をしました。

ポカラはフェア湖とアンナプルナ連峰の展望で知られる世界各国から旅行者が集まるリゾート地です。日本でいう軽井沢といったところでしょうか。ポカラという地名は、ネパール語池を意味する「ポカリ」から来ています。今回の日本から参加された池堂先生のネパール名（畑先生命名）が「ポカリ」ということもあり、親しみのあるネパール語です。

空港からタクシーで約10分。ポカラのホテルに到着です。一部屋1000ルピー。日本円で約千円、計算がしやすい時期に来られたことが、よかったことのひとつです。

親切なネパール人のご夫婦が経営される4階建ての小さなホテルでは、快適な滞在をすることができました。

まずは、夕暮れでキラキラ光るフェワ湖畔を散策しました。雲の合間から顔を出す雪を抱いた連峰。気温30度弱のポカラから雪が見られるなんて「よく溶けないなあ」と関心します。ポカラは地元の人々ものんびりしていて、ゆっくりするのに最適な場所です。

翌朝は、畑先生が「地球って素晴らしい」と、感嘆され、お勧めされたヒマラヤの展望台として知られる標高1592メートルのサランコットの日の出ツアーへ。朝5時にタクシーで出発し、山道を約30分で展望台へ。展望台にいる約30名の人々は、徐々に明るくなる稜線に釘付けです。太陽に照らされ光る雪を抱く神々しい山々。無事にヘルスキャンプを終え、ポカラに滞在していることに感謝をしました。

東洋鍼灸専門学校の大先輩である畑先生。鍼灸学生のころから参加したいと思っていたヘルスキャンプに参加することができて、本当に貴重な体験をすることができました。患者さん、現地スタッフ、現地の学生ボランティア、日本からの鍼灸師の先生方との出会いはこれからの鍼灸師としての人生の糧になるものです。どうもありがとうございます。

今回が最後だなんておっしゃらないで、次回もヘルスクャンプをしましょうね、畑先生。

## NEPAL: Never End Peace And Love

### 決して終わることのない平和と愛の国、ネパール

たむら鍼灸院 代表 田村啓朗

HC2016inルンビニに参加してとても良かったです。なぜなら長年HCをネパールでされている畑先生と出会い、畑先生という在り方、畑先生の精神に触れることができたこと。今回HCに参加したたくさんの素敵な仲間たちと出会えたこと。治療をしたルンビニの方々のたくさんの笑顔を見られたこと。現地でサポートしてくださったイスワルさんを始め温かいスタッフの皆様に出会えたこと。現地の学生のサポート。風の旅行者ホムさん。日本には体験できないことを、たくさん味わうことができました。

HC終了後、ネパール滞在を延長し、ポカラへ足を運びました。ポカラの印象はカトマンドウよりも街が整備されていて、空気が澄んでいて、街の人たちが笑顔で、優しくて、とてもものんびりできました。

私の故郷である、新潟の田舎の原風景を思い出しました。静かでのどかで空気が澄んでいて自然が豊かなところです。

ポカラでは畑先生おすすめの、日の出ツアーに参加してきました。目の前にある自然が、自分の存在がいかに小さいものであるかを思わせてくれました。私はHCで約100名治療させていただきました。しかし、私がしたことは、きっと、とてもとても小さなことで、それをしたからといって世界中の大きなことが変わるわけではないと思っています。

むしろ、私がしたことで何かを変えようなんて、おこがましいこと。そんなことを日の出ツアーに参加して思いました。しかし、「思いは持ち続けろ。そしてまっすぐ生きろ」そんなメッセージをポカラの自然から受け取りました。

ネパールを旅していたことのある友人から教わったことがあります。NEPALを構成しているアルファベットの頭文字を一文字ずつ取ると、“Never End Peace And Love”であると。「決して終わることのない平和と愛」の国、という意味があるそうです。

そんなネパールという国に訪れることができたこと、畑先生にお会いできたこと、日本では当たり前前のが当たり前でない経験ができたこと、すべてに感謝いたします。ありがとうございました。

## ユニークとシリアス ネパールの愉快的な夜

たっちゃん先生

よもぎの会の皆様のお力添えで、無事にHCを終えることが出来ました。「今回のHC参加者は、今までで一番ユニークな面々が集っている」と畑先生の言。

初めこそヤッチャン先生の味の濃い姿に心乱されたご様子でしたが、日を重ねるにつれ、知る、彼の優しさに感心なさっていました。皆のユニークさが際立ったのは5日目夜に開催された「祝賀会」でしょうか。

ヒジーからの発案で8月生まれのトム先生とカオリちゃん、そして入籍ホヤホヤのマミー先生の御結婚祝いを開催しました。

「ささやか」だったはずなのですが、まあ芸達者が集まった今回のHC。出し物に事欠きません。最初は前述したヤッチャン先生。強面に似合う素早い空手の型と、柔軟な内面に合う柔道の投げ技を披露。有段者なんですって！ぽーんと投げられていたダイチさんは、持ち前の明るさ、配慮で快活な司会をしてくれました。

彼が投げられている間、会場の隅ではボディビルダー、コヤマツチヨ先生が黙々とパンプアップ。ターミネーターの曲に合わせてその鍛え上げた筋肉を見せつけました。

昼間訪問したチベット孤児院では子供たちをぶら下げて、子どもらの大きな笑顔を生み出したその上腕二頭筋。カッチカチやぞ！紫のブーメランパンツと白い歯がまぶしい！ここで踊り大好きスバスさんがたまらず飛び入り参加。陽気なネパリ音楽が会場に流れ出すとネパリ、ジャパニ入り乱れてのダンスダンス！

更にはネパリストaffの心遣いでネパールケーキが登場！わざわざ買ってきてくださったのです。祝福を受けた3人以外の私達も嬉しくてニコニコです。

暫くして会場が落ち着いたその時、不意に場が暗くなりました。すっかり停電になれたメンバーが慌てることはありません。暗闇の中、2つの青白い光が大きな弧を描きながら入場。うっすらと見える顔はアイちゃん。スティックから伸びたチェーンの先にはLEDライトが、、、。

アイちゃんのクルクルと回る手首と体が、素早く時に緩やかに光の軌跡を生み出します。アップテンポな曲とも相まって、会場はライブさながらな盛り上がり！ヒューヒューッ！僭越ながら締めは私の沖縄エイサーで。

畑先生からアンコールも頂き、四十代の体に鞭打って3曲躍らせて頂きました。皆と踊れたカチャーシーが楽しかった！ホテル側との打合せでは、ポカリ先生の持ち前の語学力に助けられました。

HCは想像以上にシリアスで心が折れそうになりました。参加者の思いやりがなければやり遂げられなかった。本当にユニークで優しいメンバーばかりでした。畑先生始め、よもぎの会の皆様、ネパールの患者様、全ての関係者の皆様に大きな感謝を捧げます。

# 皆様の愛ありがとう

<寄付者名簿>敬称略

2015年

<9月>

中野朋儀、黒川恵子、ひだまり堂加納、芦井新蔵、柿本勇人

<10月>

中野朋儀、大島はり灸院、淀川教会、とこ鍼灸院、山田恭子、畑忠芳・明子、黒川恵子、名越礼子、中川和彦、唐見純子、平川達子、駒澤 愛、山岡光子、藤澤美恵子、久永舞衣子、鍵和田美津子、安田タネ子、山下純子、須見好和、俣野幸昭、奥村祐司、鈴木豊子、広瀬尚子、宮本鍼灸師圧院、野中マサ子

<11月>

中島成子、山下伸一郎、昆野幸代、奥田亜代、高須賀朝代、廣田稔、小野桂之助、泉谷好子、井上和代、駒井明子、城 隆嗣、志沢允子、中野朋儀、山川義人、米山周一、(公財)柏崎地域国際化協会、柿本勇人、稲村章子、水谷潤治

<12月>

千本明子、東たか子、井上和代、立松昇一・みどり、高山和子、荒木乳根子、吉田重信、酒井哲郎、志沢允子、土橋 薫、直枝利枝、畑 忠芳・明子

2016年

<1月>

池田十三、益山樹生、村田浩康、高橋保子、柿本勇人、吉田由美子

<2月>

内田暁子、池堂圭一、河村久子、自然堂治療院

<3月>

平川達子、柿沼秀巳、タココアリタケ、中野朋儀、三輪早苗、河野好則、山田薫、千本明子、柿本勇人

<4月>

西田泰子、アオキヒロユキ、平川達子、石倉克彦、中野朋儀、小柳真美弥、イケドウケイイチ、金倉 香、前田琢也、ヒジカタミュキ、ササキダイチ、駒沢 愛

<5月>

熊木亜夫、黒川恵子、安座間真弓、天野弘子、田村啓朗、中野朋儀、山室宣人、村上雄祐、浅井一芳、澤口志津子、新井陸大、コヤマトシヒロ、柿本勇人、麗澤海外開発協会、

<6月>

高橋和子、中野朋儀、大澤安則、手島美沙

<7月>

村山恵子、アシインゾウ、志沢允子、柿本勇人

<8月>

井上和代、行武厚子、伊澤政男、池田十三

<現地ネパールにて受領寄付者及び鍼の受贈>

橋本利治、西山昭弘、芦井新蔵、セイリン(株)名古屋営業所

## 嬉しいお知らせ

8月26日「在外公館長賞」を受賞いたしました。授賞式にはヘルスキャンプ参加の浅井一芳先生、OTTC第1期生イスワル ラズ パラミ&サヌ パラミ夫妻にも参列頂き大使公邸へうかがい小川正史特命全権大使より、賞と記念の盾を頂戴いたしました。

思ってもいなかった栄えある賞を頂きこれからもますますネパールの人々の健康に寄与したいと心新たにいたしました。

これもひとえにご支援くださっている会員の皆様を始め、麗澤海外開発協会、株式会社セイリンさんなどのご支援を頂けたことが今日まで継続できたおかげと心から感謝申し上げます。

資金難なため継続的なヘルスキャンプ実施は難しいかと思われませんが、年一回の地方でのヘルスキャンプを今後も体が続く限り継続する覚悟でございます。

11月5日(土)6日(日)には、筑波大学において開かれる世界鍼灸学会で講演させていただきます。お時間のあります方は是非お出かけくださいませ。

アフリカで活動しておられる「もぐさアフリカ」と「よもぎの会」の公演があります。すでに前売り入場券の販売は開始されているようですが、当日も入場可能です。

この期間日本に帰国していますので、棒灸勉強会や講習会もしたいと思っております。ご連絡いただければ嬉しく思います。

連絡はメールでお願い致します。

[mogusaan@gmail.com](mailto:mogusaan@gmail.com) 畑 美奈栄

## ティテパティ よもぎの会

★[yomogi-staff@ml.yomoginokai.namaste.jp](mailto:yomogi-staff@ml.yomoginokai.namaste.jp)★

P. O. Box 8975/EPC 5345, KTM, Nepal

3-21-2

Tel: 001-977-1-202-4142

Mob: 001-9851-022-907

E-mail: [mogusaan@gmail.com](mailto:mogusaan@gmail.com)

HP: <http://yomoginokai.namaste.jp/>

ブログ:<http://blog.livedoor.jp/yomoginokai/>

〒206-0803 東京都稲城市向陽台

クマケア 熊木亜夫

Tel: 042-378-7546

E-mail: [t@kumacare.com](mailto:t@kumacare.com)

郵便振替口座

00950-4-319624

よもぎの会